

「人生会議 ～今も、そして最期の時も、ずっと自分らしく生きる～」

令和6年11月30日(土) まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協会 市民公開講座を開催。フリーアナウンサーのおがちさん(小片 悦子 氏)をゲストにお迎えし、朗読劇・講話・パネルディスカッションを行いました！当日は、松江市民とスタッフ合わせて約100人のみなさまと一緒にACPについて一緒に考えることが出来ました。



松嶋 永治 会長 (松江市医師会 副会長)ご挨拶

1.朗読劇

松江市内医療・介護関係者から、人生会議を行なったエピソードを募集。実際に行われた人生会議をもとに作成したオリジナルストーリーで朗読劇を行いました。

おがちさん演じる86歳の松子さんが、心不全という病気を抱えながら、人生会議を行い最期まで自分らしく過ごす姿を描いたお話でした。出演者みなさまの感情がこもった演技で、松子のACPをしっかりと表現していただきました！

出演者の皆様

- ◇ 松子さん:おがちさん
- ◇ 医師:伊藤 健一 先生
(松江市医師会 副会長)
- ◇ 訪問看護師:山城 浩子 さん
(島根県訪問看護ステーション協会松江支部 副支部長)
- ◇ ケアマネジャー:井上 龍一 さん
(松江地域介護支援専門員協会 会長)
- ◇ 息子:濱田 龍 さん
(しまねリハビリテーションネットワーク 理事)



おがちさんの
出雲弁が、より物語をリアルにしてくれました！

2.講話・座談会

朗読劇に出演いただいた伊藤先生、山城さん、井上さんより、医師・訪問看護師・ケアマネジャーの立場から、人生会議に関するそれぞれの役割等についてご講話いただきました。

その後、朗読劇や講話の内容を交えて、ゲストのおがちさんと一緒に、「在宅看取りとACP」について意見交換を行いました。

- ◇ 座長 内藤 晋一 先生 (松江市歯科医師会 副会長)
- ◇ ゲスト おがちさん

座談会

- ◇ 内藤座長より『終活支援ノートを渡すタイミングはいつでしょうか?』

伊藤先生) きっかけが難しいけれど、退院された時や家族が亡くなった時と考えています。

山城看護師) 実際に渡したことはないのですが、在宅訪問時にこれからどうしたいか聞いています。
井上ケアマネジャー) 本人から心配事の相談があった時や退院時に渡しています。

◇ 内藤座長より『家族と話したことがありますか?』

おがっちさん) 3年前に父を亡くしましたが、昔気質で話が出来ませんでした。銀行関係の暗証番号やパスワードで困ったので、終活ノートがあつたらと思いました。

義母の介護をした経験では、介護している方がブルーになりましたが、ケアマネジャーさんの支援をもらい、とても感謝しています。ケアマネジャーの存在を広く知ってもらふ必要があると思います。

伊藤先生) ケアマネジャーは、長く関わり家族のような接し方をされていますね。

内藤座長) ケアマネジャーは重要であり、扇の要のような役割と思うので、ぜひ頑張ってください。

◇ 内藤座長より 会場の皆様に質問『個人的には、家で亡くなりたいですか? 病院ですか?』

挙手 …… 意外に、病院が多いですね。

伊藤先生) 人それぞれですね、いずれにしても体制を整えることが大事だと思います。

山城看護師) 母親を在宅で看取りましたが、体制を整えてもらい不安が少なかったと思います。

井上ケアマネジャー) 本人の意向が一番で、価値観も多様化していると思うので、本人に合わせて支援を行いたいです。



♪ 参加者からの感想を一部紹介♪

「健康な時から自分の気持ちを考えておくことが大切、終活支援ノートはツールとして人にも勧めたい」

「ACP は自分だけでなく自分に関わる人たちにとっても大事なことだと思いました」

「医師をはじめいろいろな職種が関わっておられてよかったし、おがっちさんの話も面白かったです」